

令和2年7月22日

星に願いを！

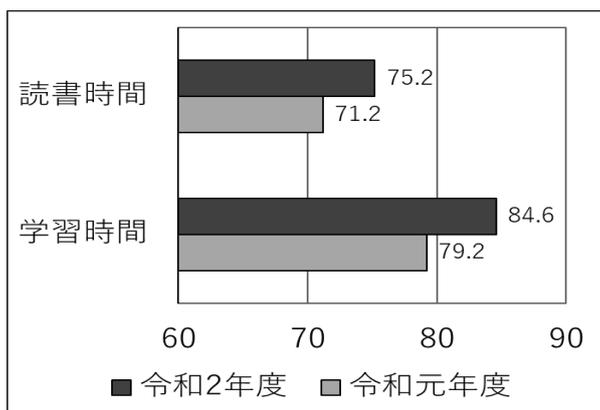


1, 2年生が、願い事を書いた短冊を廊下に用意した笹の葉に吊るしました。

「お金もちになれますように」「頭がかしこくなりますように」「さっかあせんしゅになれますように」など、例年と同じような子どもたちの願いがたくさん見られました。今年は、それに加え、「コロナウイルスがなくなりますように」など、“コロナ関連”の願いもたくさんありました。コロナウイルスは低学年の子たちの心にも、ずいぶん影響を与えているのだと改めて感じさせられました。

今年の七夕の日は、残念ながら、雲が多く、多分、天の川は見られなかったと思います。しかし、天気の良い日でも、鈴鹿市の市街地では、照明の明るさで、天の川はもちろん、なかなか星が見えにくい環境になっています。椿小学校区ではいかがでしょうか。ただ、不要不急の外出を控えているこんな時期だからこそ、家族でゆっくり星を眺める時間を取りたいものですが・・・。

「鈴峰中学校区の家庭学習達成評価の取組」 ご協力ありがとうございました！



毎学期、鈴峰中学校の定期試験1週間前から、同中学校区の小学校3校が合わせて取り組んでいる調査の結果（椿小分）が左記の通りとなりました。

昨年度の同時期に比べ、読書時間も学習時間も自分の立てた目標についての達成率が学校全体としては良い方向に上がっています。

ただ、読書時間については、毎年、同じ傾向なのですが、椿小学校の子たちの弱みとなっています。読書時間の達成評価を上げるには、読書好きの子は

苦にならないでしようが、読書習慣のない子にとっては、きっと難しいことでしょう。しかし、読書は、国語の力のかかなりの部分を育てます。読書好きの子は、知らず知らずのうちに漢字を覚えます。一般的に言えば、作文の力も高いです。なんとか、読書好きの子が少しでも増えるように、学校でも取組をしていますが、ご家庭でのご協力もお願いしたいと思っています。次号の「椿キッズ」で読書について取り上げようと思います。

「ふわふわ言葉」大集合！ 児童会の取組



椿小学校では、表立ってはあまり聞かれないように思いますが、今の子どもたちの中では「うざい」「死ね」など、相手を傷つける言葉「ちくちく言葉」が出ることがあります。オンラインで行う対戦型ゲームで、知らない人から、そのような言葉を浴びせられたということが本校でもありました。そこで、児童会の企画で、「ちくちく言葉」ではなく、相手を温かい気持ちにさせる「ふわふわ言葉」を使っていこうという趣旨で、各学年でふわふわ言葉を出し合いました。「よかったね」「ありがとう」「ドンマイ」「すごいね」など、ふわふわ言葉がいっぱいの椿小学校になってほしいと思います。

「うんとこしょ どっこいしょ」“おおきなかぶ”の学習 1年生 7月17日

国語で学習した「おおきなかぶ」を、簡単な劇で表現しました。“大きなカブ”に見立てた大玉を一生懸命引き抜こうとするおじいさん、しかし、大きく育ったカブは、おじいさんだけでは引き抜けません。おばあさんを読んで、孫を読んで……。次々と引き抜く仲間がやってきて、ついに……。おなじみロシアの昔話です。

子どもたちは、こうした劇の表現の中で、楽しみながら言葉を生きたものとして学んでいきます。

例年なら、授業参観等で見ていただくこともあるのですが、本年度は、それがなかなかできません。しかし、子どもたちは、コロナ禍の中でも、着実に成長しています。



椿小学校の夏模様

梅雨が長引き、晴れた日が少ないことや新型コロナウイルス感染拡大で、今年はなんとなく、「夏が来た！」という実感が少ないのですが、確実に夏はやってきています。

3年生教室には、図工で取り組んだうちわが飾られています。花火、すいか、カブトムシなど、夏らしいデザインがたくさんありました。

6年生教室の北側の池に、淡いピンクのスイレンの花が咲いています。午後になると花を閉じるのですが、その可憐な姿がとても素敵です。

